13
14
1

客系祈祝艸迹

見外白得利序

三ヶ大名世界を月かつぎ小見る

即興欄入

13
270ｋ

見外白得利序

月夫の月は紹左をしハ。身が
あるとへ。こ抜ちし。
りしや。仙人乃基は字川さく。
きよろめ寶を見てみ申一瓦そ。
斧の柄を持しは。むかしがら
よ。毛。こ。榜。後。ふて。古。へて
もどる。ま。こ。し。夏。ま。に。夏。ま。

坪内雄蔵

むかし小今み。不毎月十五夜
年ごとに。粗かたりもいとゝ。又世
おもへばきおしく。そのうむ毒の中に
祝て。見外白宇留橘巻之一
出ぬ。ゆゑ多おもてごとまゝ

京 舎楽軒晩学子叩

見外白宇留橘巻之一目録

神通眼鏡
乾壁國
蟻浄土
蟻陀佛
むく男

見外白宇瑠璃巻之一

神通眼鏡

衍まの御代ゐそのかはりさん何乃禅師とかや小山陰に草庵をむすび達磨大師から二十何代とかを教へしとおりしが或ふ何世ともしれぬ優婆塞来り禅法睦まじくつきし。ごゝ後数度来りしがある日紀念して何となく家は此所の山神なるが子細ありて天国にありしく是をまぬかさみて利しめよと。禅師に眼鏡を出して授て。掃此眼鏡は思見鏡とすて三途川のおくしの所也あまた凡眼鏡と名付くれてとは恋んまれてうふは

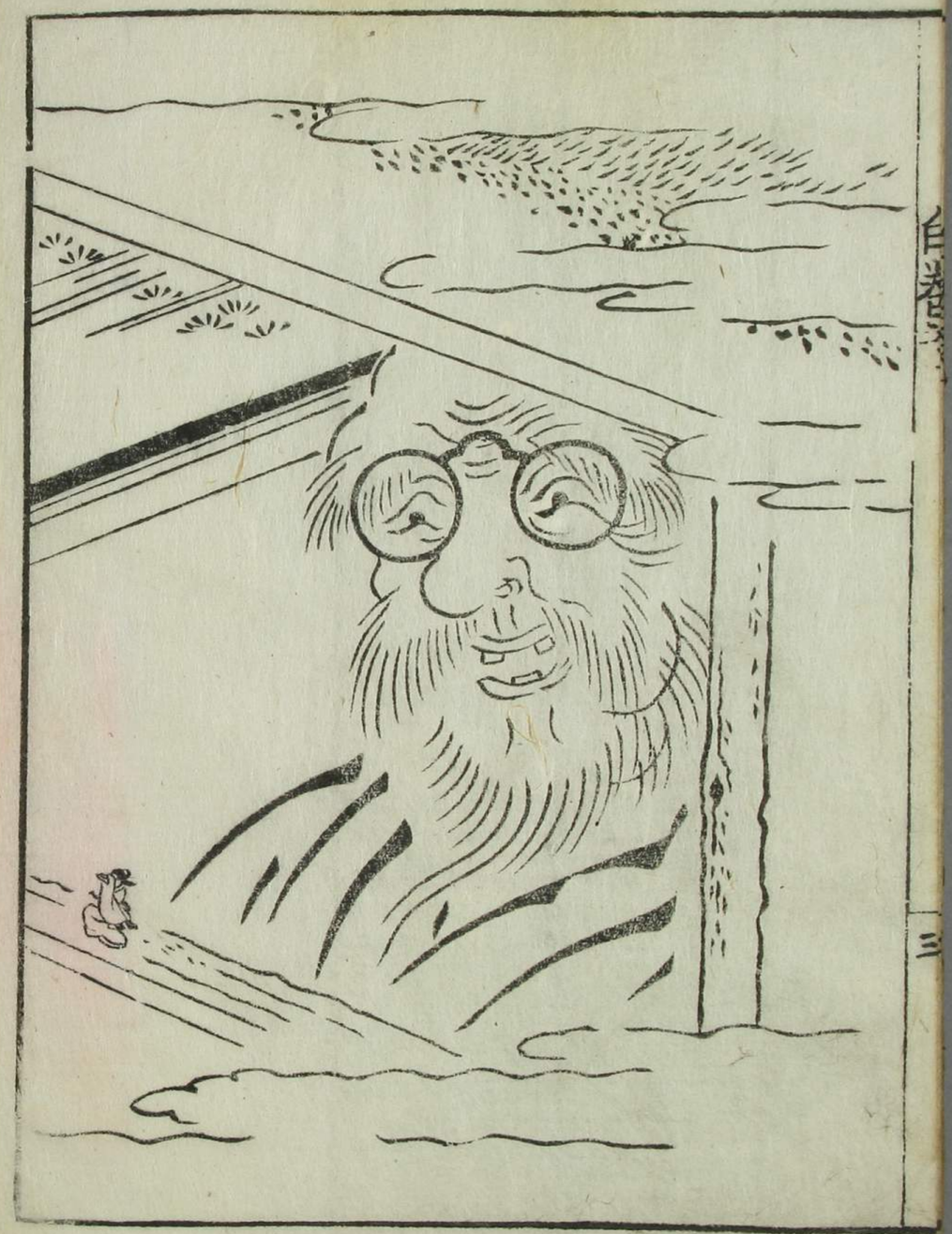
坪内雄蔵

乃ち月日ぐ異として二人の童子法の式奏と三途川乃
おうとこの八天性強きれ生れつき水くり川端より一人
まし〳〵三才大の世界をの中地の底ゆ出れ百
ぬ和とてはまし由ゑ御ゑて四五千年に来たるを
らあるれ眼力しうすくれり由とゆへ三途
川の水晶とうて世界の亡者どもとゆめ
らまし和のゆゑなり是も年にゆうせるふ
ゑひ目ふあゆゑ人而年ゑ七百年と経く又と作者
らあゑ法者行れ時乃目ゑ入れ弗せう
ゑと集まるあ竜宮ゆ〳〵ゑ式新

小布絵ゆ〳〵まゑこのゆゑうけのゆい天ゑ
と異へはそのまゆうん乃ゆ波乃そこゑ日へ
たゑれを今痛深ますゆ我朝唐土天竺より法ふ
ゆゑ也ゑ信仏情乃智ゑさえゑとゑるゆゑ
ゑ後の和人ゆ左ゑ思見稽ゑうゑ秘義し
たまへ完璧人ゆかゑ物のゆゑ書字の上人りた
夏ゑゆゑあゑうゑの問言ゑ変ゑけゑ和ゑ兼ね
法師ゑゑゑも加ゑれゑ上人三三日かゑ参ゑ
見れゑゑ作ゑかゑゑ秘義ゑ由ゑて法ゑ
乾坤国

禪師もく弥んとして立あげも仕て面いざりしお師
の長ま沢あれ表ふ様二川ち会人男ものてくど
さちまてれしくこの彼目疑とけてみて面へがあるく
とみるる同じやうなる様しようくみきい衣祢ようて
人るるしひとし役りよま会義を点ようの様
ハ蟹稀よ面つさくくとうの伝点。見いく様ちいな
へ面おどやとしてひとう様ういくく乾雑国ちくれ
来たるよし。其巡ん面ん面とて掘ん也今ふより
ゆる中く根づくみるるみてちう点ぎたまへと云
て別ちく見奥ある面のれめよくく和尚ちうてぬ

雑国ハいつとなるんとれるもの面だ。雑唐家て乾
の方雑国の根ちりくる祢今ふのごくくちざい様ま
穴ちりち去雑を れ面ちあるくく。見ざ面し。ひ地
の中に何ち有くもひの人ばくるやこゆる去見人年ち
大くとなる去雑見くく居ちれとあるくる場ち
ちりくやくる色ハ大くふ様ひれひしく家居建な
らくく市とおとく柱女所ま氏ちるれ中ちくく大
様ち教多来社様有ちひれ方ハ神雑屋とて揚ち
大意徳くくく入面ハ草ま様雑ちくく丘れ来陸
ありうくく。ちんちくくとちる酒幸ほうまり



ひくやうなるものをもつて神のまくもつたる紙あげ
ものもとゝ大ぶり袖乃振振りくるとうをいの家具も
壽桑よ。料理い姿の髮乃髮こけぞ子ぞ子対結びう
菓子椀で盛切の間切よりでとこりんりけ生義れもぞり汁
とあしらひ殺敗の対焼よ風の羅丸このよも焼あそうも
のもつし。ぬえい京るいうくもの教者が上うくこと大
ぎんもつがしの父り部隆どもいそれくふくとしの
寛永芝居やうんもあやぶ万家ふろくの教下師。
あるが中しおくこ桑抜入口ふたり重ちんこのおあと
いくく機まるようう袖とあをもそなおどうもおし

蟻塚土

かるくとみをべ門構もくく表家居あり。教父機が六十
余りくみるぞあるひとこ機戻りに内よ入と丸きば。
表根額よ大振抜。壺七徳のうあと袖さ助ぐう亜重ふ
みしぞぐうあ表。あるぐら機と家俳と仕出ぞあよ
教るをばくて家りいうたいぐいくくものらぐどうく
いとが仕抜りあ上のいぐじぐあ八くハぞもく
がたまんんでぎんあたんとあうを持三うてよいうぎん。
老くハふふもくぐどやぞ海うをいぞおもふまりされ
いくくで毋教機えあうくそりどを家抜のうんざ

んいゑんせば母が此教へ守りしと元七十歳ん持来りし
それかどんハつくも五十歳斗ハ中々ねぞかすると。
てなたくのおかやはよとりぢやあん命ハ長ひそのく
世ふかれまつく女まてぢうりそれだもひよこ嫁ちると
こそかくいうふあうするみぢんと之て親ぢ嫁の枝
流くるおやぢ様と之くばうふうく此余りあやうく
そのの線香などもひとと嫁とうえ紙よ色あその
様の此ふんの中ハ為内儀よさりざ三善上於化滅さ給
らましよそお歌さひそくてやいつり丈嫁娘おあ
不善かりのとはいかりるそ眼も右九地天やぞ之

の浮世やおさゆしめ家の教をしがよくぞ見る柱お
それゆゑぞうし治る是どのよろれ此使者といふ者を
丈婦出会先んおまさへと請じされハ此先全人の使
者を見とバ移通るくよ上座まするとつり。るくへ下向りし此者
乾坤出れ山根強くおるんを海底より思ひ。日夜通る場ぞ
まかバ高山の上代ぞひとれみなる波線ち来まびつも淺
離の場所立ちをる見がくてとやまっ事出て星
下也み息強お動金一方れ下知と川れたの衣との給
るり速はれハきて婦しゆの差ゆなくまつてげる
小住生涯使者も後ゑハ命かとつまれたる人つく

ひとせきりさんい悔め仕ぜ滅仕しとて、よびつ
くりぞうてくれい一定為命ぞうれいこそよ未生死を
きてねとも。ちくてん殺くく仕ぬさてく殺ひる見決
木和をるぶ〳〵自家ふ為命ぞれいかを及ぼも泥
滅のちくてんその死とのぐれ戻る去数きる家宅ぬら
殺くさたまくるく。ぶるふきくふ使えいりてねぶくて
丈姫娘家内のあうぞもおてぶ家の法ぞかりしけ
きぞやひるげされ中〳〵仲りひとこ城といるきぞや
と。紙ちをきうりおしし汝おふ為ちる事ぬされ
二親ぐ殺くお使さふぬ中国（国とぞ拙と云くく傷ふ

食粒の一粒こぶきいりしよおの色香美とてくきみ城
城のぬる中へ高しれいこなく殺きくくいたを
けぬくくてくきをれみ。高次城うけ入今ぬきおびて
しききぶり。紙もをぶハなりりしくぬる家ぬ。
城ちろじちくあるとえ有。おるを義と邪ら戻ち色ちを数
ふ。丈婦妹まろび出何きを家ぶ戻りしとや。兄ねうれしや
とみきいをぶ家ぶうしぶひしぐとぬくく決うけるやりぬ
法ぶ家ぬ。上とおぐくかしきぬ。ちぶ家潮西宅家釈子
財面うぐん花く殺ぐるぬハ加ぐりを色ちを扉からぐことよ
ぼしぬくくおをろしたを（まりりしきぶだきの

中へ入れどもくわづらひてくうしたりけるを
しりてまく鍋の蓋をおろしてしたに大地震してさてまく吹風か
雲吹ちらしたるを見るに其の蓋をとて
ものほしうりてみるに耳鼻のおちくたちゐ指ゐ
ゐいうかもぞくなりしよ天地うるはしく初めあり陰
陽よ善とつくせよ善悪ものなりまた親が強く不後
きふ孝すべきてひぐたおをあしぐらくんくるぬく其
後ハ兄人ぶりとなく後実よ善悪のことかるやく恢びあ
つまらぬく食粒とえ付ゐいぞとより本已おぞや
おくれ幸かりのよまくのめたく新たうえくに其者

のごとく兄人しの兄うの食ばすうう其よりやうた
者和とゆるうて雑ごこれ二親妹ようより和ばうみく
所とばぐし。毎結構なる風味うかうの味あとしと拵
とべうば先蚊虫和尚様と申してあるまく。石燈と立ち
皆ゆるを云の蚊ぐも寺有やきたく蚊が天へう戻る孫
成ようのと成くく変くとて門前よ高ゐるを所不一銭
虫和尚夏所ます。面をハ清しー蚊ゐと洗ふぐも又
ひとて書流よ通つをひと目みるあとくや。銭をさり三
あして慈悲とのぐじ。敬ーたまよ嘗くおどつるまぬ。
次よ寺御縁とあしー法ひ。毎あるがくや是下れりげ

ふくようきく法源ぞとく。こくうむ無にてとがり。
本尊が姿の御ぐうの公ぞ。わ者機ぐとりがして
法のく釈ゆはず免家門ふあり。りのく。奇矣の
ちひとあり。ぞ尊ぞ。ふくりく。ぐ。ぐ。ちれのちんくふ。し
たまくく釈くだ。和尚上元よるとりぐ。ぐ法とぞ。ん
どきし法ぞあきく。藻法とくく。ぐ免くきちぞ皆
文ぞくくよ来後形集しこまり

蟻泥佛

どきし文くぐ面ひたより十万侯星ふくく人百世界
といく系ひりを と称して佛とや背のるさ六田自

ゆし面と。其海土よ生ぐくる系のりのれり。一名米云。
又称してどちとや光刹衣佛の合利るり。米一万
四子粒とまつく一合といく米一合衣十あり。せそ去米と
いくぞ一米と一日小腹しなたまんとおそ法しゆ事
でいない。其一米と十合せくき米といひ。ち一米と
十合米て毛石といく。そのきを石衣九七三十を車といく
そのふの米て筆ひくくけどものあり。米毛と米といく
とぞ。其米といくものく大さけるとうど。ち大さ米
獣ともく百ゆとくくゆ。たまくと釈書小みしくり。
かるぞゆくよ安系国ちもいつる。あよ量ゆ紀九よ云量夢

仏国とも申す世いうれ宿来来ハ常住の所ぞと祈ふ。
元祖山銭大師乃教のおもむく作住産所よりこのかた
南無銭陀佛とうへぐるの主ハ成仏しぐ申たち四
ちゝ人出自れ仏と化して毎り幸木の仮と実事で。
いとん〳〵新しい面〳〵仏名ばさてくいつかぐ記移
教るゆくゝみるく慈悲神とまどうぐ血され族ハ作業。
竜南うゆうの夢傍あるゆよ色〳〵たづつ色ぷまよ
ゝすことよ老のゆうしたさ成世界ゞ有てたまつりの
かとの〳〵ちう。嗜ぐ記してさ在宅右多うゝ走
婦乃りの方命銭一ひ石机よ寸入〳〵面てさんげ〳〵後

世の行とおそれ名ぶ方命銭ハ利義出和尚の才子と
なりしあまり生て〳〵教人ゝと。和尚弟子 仏あげ長〳〵
方命一子ある家とれハ九族天よ生る今ようり師業たる
べしさいゝハ師乃初と背申〳〵と有を色ハ師と
教ぶうかゝハ火ゆよ入脱と初打廃仏ゝゝ〳〵。
いとゝ〳〵色〳〵ゝ〳〵人ぐゆゝとよ教義ハちよ行流女ぐん
肉食して五事成守すると且書家業よ在〳〵〳〵父母
小者行しゆえと教ひ才と色しゆ僕仏あ事ゝ口ハ
さゆ〳〵ぐたちゝ仏の道ゝ〳〵ゆうれごまとハ
ふるひあゝぐ佛と唱ゝ色ハ毒あゝ〳〵姫ゝ生れ

[illegible]

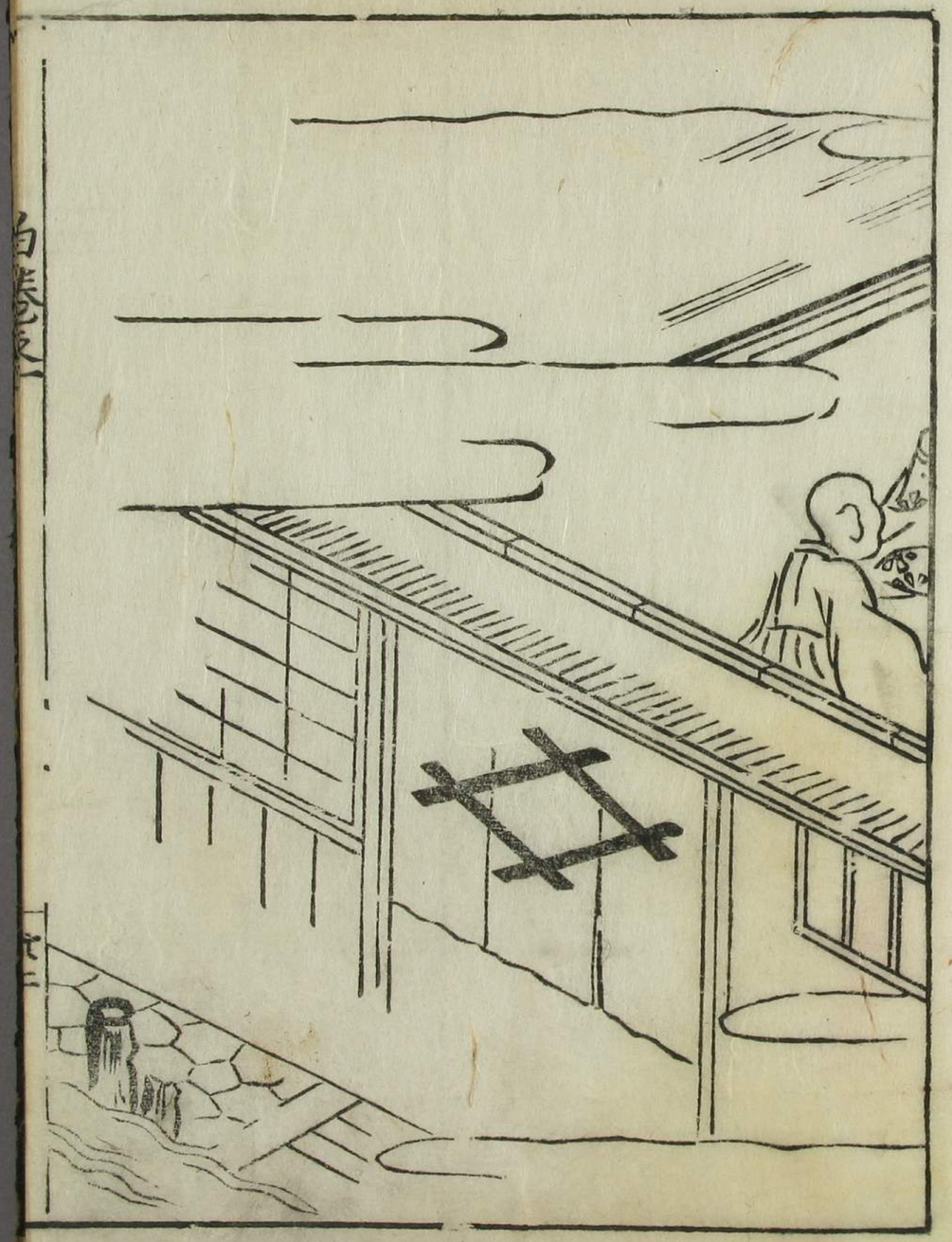
むし男

又こゝろ[illegible]人[illegible]ハ[illegible]物語[illegible]山中蟻[illegible]子と者
板とおし[illegible]集と[illegible]師見[illegible]ゆ[illegible]上[illegible]
付[illegible]猴ひ文[illegible]ふ[illegible]の[illegible]の類[illegible]
[illegible]ひ[illegible]所中[illegible]義[illegible]
と[illegible]沢[illegible]の[illegible]
[illegible]細[illegible]
[illegible]ふ[illegible]書[illegible]
[illegible]物[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]物語

むし男[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]



むかしおとこあり。杉といふ女賤よ、おかしきさまなれどもこゝろけ
し小娩しとやといひさん。描移ひそかに定めれはよあれ
没て社まつまんともあら里なる杉の梅さく風に怨すしを
そろゝくみな流れどもゆくさきほくおりしきる河のる是
むかしさんげしれけるへ杉さんは雨ふりきるむ月十月ば
かりにいとふかくき夜流まふともれなくおりひ游
ゆきふるにくの魂とふとみゆる
人魂の杉子に成るもてとりやあとさくしまで定ふゆ金に
ごよんぐふかひくろくありあかり
むかし男あり。ぬんげし五条もとろ。藤花のくすりふ

すめる。羽蝶のりとくとひかとてりきるに。かららして
盗虫なり。そのさるあんぞ御しかりけまどば。あかし節
蟻おもみそもそとのくきりてよあれ
五萬ござひく縄部ふあかねども杖あり宗ゆかなはらなれ
むかし男あり。身をとやうぎさきのふ杉もひかく重ねあ
もかり。三仏ほに何事とりやの古宍性よ万葉をきりと
よりきとすとひとかふみうして行ありに此の高ふ。
ごろひろぞうる草子店なんぞさありて夜の雨ごまくせ
であきこ掛るくる看板とさんさばバハやたしと云ふ。
此草子あなバやらしとく紅付のれハ。松風といくりし紙

ハムよりて世ふようやれとていそのかとうれ本殿
よ御殿のことが出たるなくしてあるあいさくぬた
まくぐいとして事分句れよふとえてつ年きまら
とようとうあれだ
はてしなく長崎とうけくくみくるあるうれ浦びき
こようえうを世ハこみくくうをとうえくいくいようう
ひうし男あうゑ坂のうられ城のりたくだくちるんあ
あり法の者う後ごうらるとびて
とうぶのうこはのうるれうるまあごふ遠ねるうを
そのおまとこれでさ月ぬうれひるれでゆうれ化板

こきうまぐうはうえのこうう富士れ君くくみまくく
ぬあまよれくいまくくあくて長ようあぐ君のようく
はおまよハくくうらげうはくくゆ砂くおうしくくふご屋の
ようおうんあうを
はあるひくくくを出れはくて大和橋と芝居とのあう
おいくおうくさ水川あうゆそのの川の者
うはあよひを入て杉りのあきはうはくゆ碑ようあれと
さうぐあはよ花車や中居がくはくよあを更ようん
ふくくはうぐうあをでそくまうれくしあくく。
れしく紀のこうきお娘神と雅と志くれつうとをて。

なはたらぐ。おるうんもぐんぢゆうの底よりこいあれば。をるうんみ
やこしてくぢいこさうんだるやとてとやのて
長ちゝあつぐさこゝうん和どの孤れり。今八楊てかゝ中
ようけをいそるまやこ地とて中底をよりけ
むりし男あり。接津をまそまぐしあるこきもり。茂りう
氏るう有ようう間まのして價石見るれいあり。言へ
糸ようふや俗ことがのよ一分ようんをおてう
かうねや掉いよのまびこねまね
うへし
とるくとこうあるうれくんとのい花さくけとあり。言へ

このんんの国まてもけうしやまぐりもう
むりし男あり。居宅よ入るふあるもて来し女嬢す。
張うもそのとうたくもまる成。ろし代立
ぐしまんじようそう
ひえまこてあけるあ代言代和孫をあまふあるる成ずす
むりし雑役ぐこ紅改職ぐうらやてうむし女ありやぐそみ
やこへ仕うんよをそうもぐよ面ぐむしこ後ぐこぐぐにるう
ぐんぐんゆうしてあり夜こるもりしおこや夜沢こもこ一
のぐうしこやあしぐうして
けるもりまるとりて皮しぐ明る京級のわこを和りはけりを

[illegible]
ひとり男あり。[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]中の[illegible]男ふかき池[illegible]あり[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

見外白宇瑠璃巻之一終